



それは  
逃げのような  
気がする

---

詩集

---

たなかひまわり

---

## それは逃げのような気がする

<http://p.booklog.jp/book/90582>

- 1.それは逃げのような気がする
- 2.もう泣くのは
- 3.信じられたら
- 4.鼓動のゆらぎ
- 5.悩む暇
- 6.奇跡
- 7.勝手にありがとう
- 8.階段
- 9.時計
- 10.やわく ゆるく
- 11.空はまだ静か
- 12.カフェオレ
- 13.綺麗に澄んだ透明の水
- 14.月と天使
- 15.考えるまでもなく

著者：たなかひまわり

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/tanahima2327/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/90582>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/90582>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ

それは逃げのような気がする

---

何をすれば安楽の道を辿れるのか

わかってはいるが

それは 逃げ のような気がして

私には出来ない

引き込まれ

流されてしまおうかとも考えたが

どうも違う気がして

思い留まる

自分が歩いてきた道を

更に磨き上げ

私なりのやり方で

頂点を目指す

きっとそこに

最高の喜びが待っている

もう泣くのは

---

泣くのは嫌なんだ

誰かが泣いてるのも嫌

辛い思いをしたくない

してほしくない

もう じゅうぶん

哀しみを積み重ねるのは

泣きたくないんだ

泣いてるのを見たくないんだ

心の痛みは ここに置いていくって約束して

信じられたら

---

明日が信じられるといい

うまくいくと信じられるといい

何の根拠がなくても

先に信じられたらいい

考えることはない

自分をただ

信じればいい

明日まで待つことない

今 この時を信じられるといい

何の根拠もない

今を信じられるといい

簡単 かんたん

カンタン kantan



## 鼓動のゆらぎ

---

山が紅く色めく

沈みゆく陽に染まり

やがて来る闇にそなえ

自らの存在を知らしめる

頬が熱く色めく

温かい腕に染められ

やがて来る闇にそなえ

自らの存在をここに示す

影と化した山は

湖面の囁きと同化し

やがて静かに眠りにつく

影と化した頬は

鼓動のゆらぎと同化し

やがて穏やかに眠りにつく

悩む暇

---

悩まなければ

悩まない

悩む暇がなければ

悩まない

暇 暇 暇

悩む暇がいっぱい

自分から一歩 離れてみる

さて悩もうと

意気込んでる姿が見えた

忘れてたのに

悩みを思い出そうとしている

一瞬の隙が底なし沼

危ない あぶない

楽しいことはなに？

テレビ

映画

読書

料理

掃除

勉強

絵を描く

詩を書く

アクセサリーを磨く

お風呂で自分を磨く

他には？

何する？ なにする？

何したい？

奇跡

---

無理

奇跡でも起きない限り...

そう呟くも

心の隅で

奇跡は起きて

きっと叶うと信じている

そんな自分

そんな自分を

前から知ってる

繰り返し くりかえし

同じことを考えて

最後には必ず...

何度も諦めようとした

諦めたら 人生は終わる

それくらい真剣な想い

奇跡は必ず迎えに来る

だから今は

じっと

じっと...

勝手にありがとう

---

よくわからないけど

体の中心が熱くなって

やる気が漲る

誰かがパワーを送ってくれたんじゃないかと

勝手に ありがとう

嬉しいが溢れる

更に アガル

よくわからないけど

体の中心が熱くなるように

私も送ってみる



どこかの誰かに届くんじゃないかと

勝手にシェア

楽しいが高まる

更に アガレ

## 階段

---

ここは

あなたがいる場所じゃない

さっさと上へ行きなさい

ここは

私がいる場所でもない

さっさと上に行きます

ここには欲しいものがない

ここでは欲しいものをすべて手に入れてしまった

階段を上った先で逢えるといいね

階段を上った先で必ず逢おうね

## 時計

---

そうだよね

決めたことをすぐに忘れてしまう

あなたにとっていいこと

わたしにとっていいこと

ずっと考えて

ずっと悩んで

あなたがくれた時計

引出しの中でそっと息をし続ける

同じ空を それぞれの場所で

見上げることを選んだのに



やわく ゆるく

---

守っていたはずが

守られている

弱いもののはずが

強さを見せる

前から眺めていたものを

少し斜め後ろから

全く違った景色

日常には変わらない

頑なな心

やわく ゆるく

甘えてみるのもいい

戸惑いながら

躊躇いながら

空はまだ静か

---

このままでいいよ

ぬくぬくと しんしんと

更けていく夜

胸がほんのちょっとだけ痛むけど

そんなことは気のせいで片付けられる

紡いできた糸は

軽やかで

華やかで

まだ続きがあると

信じているのだけど

このままでいいね

ぬくぬくと しんしんと

空はまだ静か

胸が朝を想い ときめくから

そんなことで夢を抱いていられる



カフェオレ

---

甘過ぎるカフェオレ

ここ数日の反動

まあいいよね

たまにはね

自分に優しくしないと

会えないことが

当たり前になって

麻痺したものが

感情かどうかもわからなくなって

必要な事だったりするんじゃないかと

悟った振りしてみたりして

甘過ぎるカフェオレ

明日は飲まずに済みますように

綺麗に澄んだ透明の水

---

綺麗に澄んだ透明の水が

欲望にけがれた姿を映すかもしれない

異なるものが許せない

他者を排他する自分を見せつけるかもしれない

だけど

綺麗に澄んだ透明の水を

妬みや僻みという泥で淀ませてはいけない

まして

権力などで濁らせてはならない

大切に たいせつに

愛をもって包み込む

それを忘れてはならない

月と天使

---

月がね

願いを聴いてくれる

だから

空を見上げて

「ありがとう」って先取り

天使がね

未来を教えてくれる

ほらね

見かけるナンバー

もうすぐ叶う合図

ずっと信じてる

ときどき不安

月と天使は

ずっと見てる

誰のことも

あなたのことも

考えるまでもなく

---

目を閉じて

ふわっと大きく

取り囲む輪をひとつ

何が幸せだとか

何が不幸だとか

考えるまでもなく

数えることもなく

無になることで現れる

至福の形

還る場所